

平成の、その先の時代の新たな菊池づくり

(安心して暮らすことができる故郷)

- ・平成28年4月の熊本地震は、大きな被害と衝撃をもたらしましたが、発災直後から「チームくまもと」として力を結集し、国から最大限の支援を引き出して、復旧・復興に向けて邁進しています。

このように、近年の地震、記録的集中豪雨、経験したことのない暴風や大雨を伴う台風、異常なまでの猛暑など自然環境の異変に不安を抱かざるをえません。

そのため、生活に欠かせないインフラの総点検を進め、その結果を踏まえ、道路の整備・改良、治山・治水、ため池の改修など、防災・減災、故郷の強靱化のための対策を集中的に実施し、安心して暮らすことができる故郷を創り上げていきます。

(しごと・ひと・故郷の創生)

- ・人口減少、少子高齢化への対応は「引き続き、待ったなし。」の課題です。そのためには、大都市圏への人口流出に歯止めをかけ、若い世代が就労・結婚・子育てに希望を持てる地域、女性や高齢者の皆さんの経験や知恵をもっと活かすことができる社会・地域づくりを進めていくことが必要です。
- ・人口減少の克服は構造的な問題であり、解決には長い時間を要します。そして、やさしいことではありませんが、引き続き、将来をしっかりと見据え、ぶれることなく、着実に取り組み、地域に「しごと」をつくり、「ひと」を呼び込み、そして「故郷」をつくるという好循環を確かなものとしていきます。

《しごと》

稼げる農林業へ攻めの挑戦

農こそ国の基(もと)です。農林業の振興は、地域の活力の源であり、環境保全や伝統文化の継承につながります。そのため、将来にわたって稼げる農林業の条件整備に取り組みます。

- ・水田地帯では、担い手や営農組織の育成と用排水路の再整備、農地の担い手への集積を促進します。中山間地域では、農地基盤整備を促進するとともに、活力ある地域づくりと鳥獣害対策を進めます。このような取組みに際しては、日本型直接支払制度や農地中間管理機構等の施策を利用しながら、農地基盤整備事業、中山間地の振興対策や鳥獣害対策等の各種事業をフル活用します。
- ・畜産業では、畜産経営の体質強化を目指し、畜産クラスター事業を活用し、環太平洋経済連携協定（TPP11）や日本とEUの経済連携協定（EPA）の影響を最小限に抑えます。
- ・水稻や野菜などの園芸作物では、良食味やブランドづくりを促進するとともに、この地域の宝である豊かな水と肥沃な土を育む「くまもとグリーン農業」や耕畜連携による良質堆肥の利用促進を図ります。
- ・さらに、農畜産物の輸出促進や6次産業化を促進し、農家所得の増大と地域の雇用創出を進め、ロボット技術や情報通信技術（ICT）を利用したスマート農業を加速化します。
- ・林業では、林業の成長産業化と森林資源の適切な管理の両立を図るため、新たに導入された森林環境譲与税を最大限活用し、市町村に経営・管理を委ねるなど新たな森林管理システムの確立を進めます。また、新たに開設される「くまもと林業大学校」を活用し意欲ある林業経営者の育成を進めます。併せて、林業者の所得の向上のため、特産である椎茸の生産振興を図ります。

【主な県営農業農村整備事業】

- ・鍋倉地区、第三菊池東部、下河原地区、菊池平野（菊池堰、大代堰、長清堰、宝永隧道、赤星堰）

商工業者の元気づくり

- ・熊本地震により被災した中小企業等の事業再建を後押しし、地域の経済・雇用の早期回復を図るため、「グループ補助金」や融資制度の大幅な拡充などによる支援を進めてきました。今後も引き続き、被災企業の経営状況をしっかりと把握し、事業者に寄り添った支援を進め、熊本経済、菊池経済の再生・復興を確実なものとしします。
- ・地域経済を支える中小・小規模企業の振興を図るため、商工会と連携し、小規模事業者持続化補助（最大500万円）、経営力向上支援補助（最大1000万円）や融資制度の拡充など支援を強化します。
- ・喫緊の課題である事業承継や人手不足に対しては、事業承継ネットワーク事業や創業に対する補助等による支援のほか、地域の高校生を対象とした企業ガイダンスにより若者の県内定着を進めるなど、きめ細かな人材確保対策に取り組めます。
- ・地域の事業者等への高い経済波及効果と新たな雇用創出が期待できる地域の中核的企業に対し、地域未来投資促進法を最大限活用し、IoT等の最新の技術を活用した設備投資を支援していきます。

菊池テクノパーク

- ・工業用地としては、これまでに県有の林原・蘇崎工業団地に企業の誘致を進め完売しました。県内最大級の規模である県有の「菊池テクノパーク（菊池市旭志川辺地区）」は、地域経済への波及効果が高い大型の企業誘致の受け皿として整備しています。今後、企業誘致促進補助金や人材確保などの支援を充実しながら企業の立地を進めます。

豊かな資源を生かした観光産業の振興

地域経済の活力を維持・発展させるためには、国内外からの誘客による交流人口の拡大が重要です。

- ・ラグビーワールドカップ及び女子ハンドボール世界選手権大会が開催される2019年は、熊本に世界中から人が訪れるビッグイヤーとなります。折しも熊本を舞台にした大河ドラマ「いだてん」が放映され、熊本の魅力を国内外に発信し、交流人口の拡大を図るまたとないチャンスです。

- ・菊池には、菊池一族に代表される歴史、菊池溪谷をはじめとした素晴らしい自然、美肌の湯と称される温泉、実り豊かな農産物など、豊富な資源があります。それらを活用した、フットパスや農林業体験、お菓子作りなどの「体験型観光」や「食」の充実による菊池の魅力アップを進めます。
- ・具体的には、菊池溪谷の溪谷館のリニューアルや遊歩道の整備、千畳河原の再現等を進め、さらに魅力的な観光スポットとなるよう取り組みます。
- ・斑蛇口湖は全国有数のボート競技場であり、2020年に迫った東京オリンピック・パラリンピックに向けた各種競技会や練習会場としての活用を促進します。
- ・「菊池川流域の2千年にわたる米作り」が日本遺産に認定されるなど、玉名市や和水町、山鹿市と一体となった流域での魅力もクローズアップされています。これら周辺の市や町とも連携しながら、日本遺産を活用した周遊ルートの開発、そして国内外からの誘客の促進など、県北地域をはじめとした広域的な観光誘客を進めます。

「地域の守り手」としての建設産業の振興

建設産業は、道路などのインフラ（社会基盤）の整備や維持管理、災害時の復旧・復興などを通じて県民の安全・安心に寄与するとともに、地域の雇用・経済を支える本県はもとより地域の重要な産業です。

- ・このため、担い手が確保・育成できるよう公共事業費の継続的・安定的確保に取り組みます。
- ・建設産業が若者にとって魅力ある産業となるよう、週休2日の推進など働き方改革を進めます。
- ・建設産業の生産性の向上を図るため、ICT活用の推進に取り組みます。
- ・（一財）熊本県建設技術センターによる若手技術者等育成のための研修の充実に取り組みます。

《ひと》

安心して子育てできる環境づくり

- ・地域創生の実現のためには子どもの数を増やすことが重要であり、そのためには、安心して結婚・出産・子育てできる環境づくりが不可欠です。
- ・現在、国民全体で子育て世代を応援するため、2019年10月からの幼児教育の無償化に向けて準備が進められています。さらには、2021年4月からは真に必要な子どもたちへの高等教育が無償化されます。
- ・市町村や民間企業・団体と連携し、結婚機会の創出や、不妊対策事業、乳幼児医療費助成、放課後児童健全育成事業などを充実させ、妊娠・出産、子育てしやすい環境づくりを強化していきます。

菊池教育の向上

- ・毎年実施されている『県学力調査』では、菊池地域の小・中学校の学力は常に上位にあります。『体力調査』でも県平均を上回っています。また、全ての学校が校区の住民と一体となって菊池っ子育成がなされています。
- ・教職員についても、ICTを利活用した授業やグローバル化を先取りした英語教育等に取り組んでいます。
- ・今後は、小学校・中学校ともに県トップの学力・体力を持つ菊池の実現を目指します。併せて、就学前教育の充実のため、幼児をもつ親同士がつながり、互いの思いを語り、学び合いながら安心して子育てができるよう施策に取り組み、幼保・小・中の連続した教育を高校教育までつなぐ取組みを進めます。

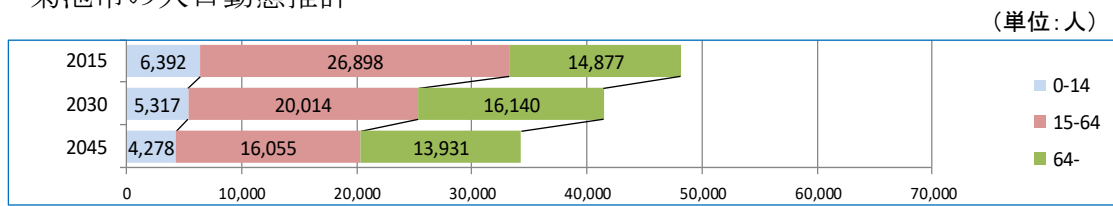
高齢者の福祉・医療の充実

- ・菊池市の後期高齢者（75歳以上の方）の割合は2017年の17.6%から2025年には20%を超えるとされています。そのため、高齢者になっても安心して暮らせるよう「地域包括ケアシステム」の構築を推進し、在宅で医療や介護サービスが切れ目なく受けられるよう取り組みます。
- ・認知症対策は、早期発見・早期対応の充実に取り組むとともに、住み慣れた地域で安心して認知症医療・介護が受けられるよう、認知症疾患医療センター、地域の専門医療機関、介護サービス事業所等が連携した「熊本型認知症

医療・介護体制」をさらに強化します。

【参考】

・菊池市の人口動態推計



※国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(2018.3.30)より抜粋

移住・定住促進

- ・地方暮らしに興味のある層や熊本への移住を希望する人たちに対して、大都市圏での相談員の配置や移住体験ツアーの実施など、受入体制と情報発信をさらに強化します。
- ・県内に就職する若者の奨学金返還の支援や起業家やベンチャーの発掘・育成など移住希望者のステージに応じたサポートにより、若者や移住者の定着を促進します。
- ・特に、菊池地域の南部には製造業や商業が集積しており、この地域に就業する人たちが菊池北部地域から通勤することができるよう道路の整備に取り組むなど人の移住や定住を促進します。

一人一人を大切に作る社会づくり

- ・一人一人が人権を尊重する感覚を養うため、同和問題をはじめとする様々な人権問題を県民が自発的に学ぶことができる機会の提供や創意工夫を凝らした啓発に努めます。また、男女共同参画を推進し、男女がともに自立し支えあう多様性に富んだ活力ある社会の実現に向け努力します。

《故郷(ふるさと)》

中九州横断道路

- ・熊本市と大分市を結ぶ地域高規格道路の「熊本市～大津町」間の事業化をさらに推進していきます。
- ・この道路は、自動車専用道路で、菊池市近郊から、熊本市、九州縦貫自動車道と直接アクセスできる道路です。昨年10月にルート(案)が示され、現在、都市計画決定に向けた手続きが進められており、引き続き促進議連会長として早期着工と早期完成に取り組めます。



県道の改良促進と交通安全施設

- ・ 2019年から3ヵ年で実施する「防災・減災・国土強靱化」緊急対策により、防災のための道路、河川、砂防等の重要インフラを重点的に整備します。
- ・ 国道325号の4車化の促進、国道387号（広瀬地区）の完成、その他未改良の県道整備、交通安全施設の整備をさらに進めます。



国道325号4車化事業

【道路事業】

- ① 国道325号4車線化整備事業（菊池市大琳寺～森北）
- ② 辛川鹿本線合志川橋架替事業（菊池市泗水町豊水）
- ③ 日生野隈府線道路整備事業（菊池市上木庭）
- ④ 二重峠菊池線道路整備事業（菊池市神鶴）、（菊池市日生野）
- ⑤ 原植木線道路整備事業（菊池市泗水町吉富）、（菊池市泗水町南田島）
- ⑥ 原立門線道路整備事業（菊池市立門）
- ⑦ 住吉熊本線道路整備事業（菊池市泗水町永）
- ⑧ 旭志鹿本線道路整備事業（菊池市森北）
- ⑨ 辛川鹿本線道路整備事業（菊池市七城町橋田）

⑩ 菊池赤水線道路整備事業（菊池市旭志小原）

【交通安全事業】

- ① 国道 387 号交通安全事業（菊池市広瀬）
- ② 原植木線交通安全事業（菊池市泗水町永）

安全・安心な地域づくり

- ・災害から地域住民の生命・財産を守るため、菊池川の護岸整備、狐塚川の砂防堰堤整備を促進します。
- ・熊本地震を契機に新たに判明した「土砂災害警戒区域等」の早期指定を行うとともに、引き続き「土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）」からの移転支援事業として移転費の助成を行います。
- ・合志川橋については、洪水氾濫を未然に防止するために架け替え整備を促進します。

【河川・砂防事業】

- ① 菊池川河川改修事業（菊池市片角～亘）
- ② 峠川河川改修事業（菊池市旭志川辺）
- ③ 狐塚川砂防事業（菊池市旭志町麓）
- ④ 湯舟川砂防事業（菊池市旭志町麓）
- ⑤ 岩瀬川砂防事業（菊池市七城町亀尾）
- ⑥ 生味川砂防事業（菊池市重味）

【橋梁架替事業】

- ① 辛川鹿本線合志川橋架替事業（菊池市泗水町豊水）

産廃問題等について

- ・九州産廃問題については、菊池市と九州産廃(株)が締結した環境保全協定に基づき廃棄物焼却施設が平成 30 年 11 月に廃止されました。今後も環境保全関係法令や同協定等が誠実に遵守されていくよう取り組みます。
- ・引き続き、素晴らしい菊池の環境が保全され、さらに低炭素・資源循環・自然共生の取り組みを推進し持続的に発展する地域社会を構築します。

市民活動の支援

- ・地域の歴史を再認識したり、新しい文化を育むような様々な市民の活動を支援し、市民が郷土に持つ愛着や誇りを一層強いものにします。
- ・特に、地域の団体やグループで取り組むコミュニティの維持や交流の拡大に対しては、地域づくり夢チャレンジ補助金等により活動を支援するなど、菊池地域がさらに活性化され菊池の魅力を一層広く発信するよう取り組みます。